

綿菓子器で『PET綿』^{めん}

村田憲治@山県高校

日本化学会化学教育協議会のつくった「理科・化学からの提案」という冊子に載っていた「ペットボトルからリサイクル繊維」という実践（武蔵野市立第一中 辻本昭彦さん）を見て、マネしてやってみました。

影の薄かった綿菓子器に再び活躍の機会が

化学の時間に「最近PETボトルをリサイクルして服を作るなんてことが流行ってるみたいだね。まあ、昔からポリエチレンテレフタレートはポリエステルとかテロンとか呼ばれる化学繊維だったわけだから服になるのはアタリマエであって、特に画期的なことでもなんでもないんだけどね」なんていう話だけはしていたのですが、やはりペットボトルを繊維状のモノにして見

せてあげることも大事かもしれないと考えたのです。

しかも「アルミ缶の内側のコーティングが溶け出してくるから危険だ」という指摘を受けて、近頃やや影の薄くなっていた綿菓子器に再び活躍の機会を与えられそうです。

やり方は簡単。まずペットボトルをハサミで切って細かなチップ状にします。このペットボトルチップを砂糖の代わりに綿菓子器に入れ、モーターで回転させながらアルコールランプで加熱するだけです。待つこと数十秒で、空き缶にあけた穴から融けたPETが飛び出してきて、すぐ冷え固まり繊維状になります。



想像したほどたくさんはできないのですが、できあがった繊維をかき集めるとまさに「化学繊維の綿」という感じ。うまく紡糸できれば面白いのですが、まだそこまでは挑戦してません。

あなたはペットボトルから作ったシャツを着るか？

それにしても、以前から気になっていたのは「ペットボトルを再生して服を作るなんて、作る必要のないペットボトルを作り続けるためのゴマカシではないか」ということ。

インターネットで調べてたら、「あなたはPETボトルから作ったシャツを着るか？」というページを発見し (<http://www.ne.jp/asahi/ecodb/yasui/PETShirt.htm>) 同じようなことを考えてる人がいるんだとますますその意を強くしました。本来は「水平リサイクル」（ペットボトルは再びペットボトルに再生する）のが筋なのであって、Yシャツに再生して売れなければ「リサイクルの意識が低い」などと消費者の責任にすり替えるなんて言語道断です。

つまりめゴミを増やさないためには何を学び、どんな知識を身につけなければならないのかを考える必要があります。

（上の写真の印刷がうまくでてなかったらこちらどうぞ→ 物理あもしろ.COM <http://physics.omosiro.com/>）